

大学番号：私162

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

金沢医科大学大学院 看護学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人金沢医科大学
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 看護学部事務課（大学院担当）

職名・氏名 課長 ハヤシ ヒデキ 林 秀樹

電話番号 076-218-8022

（夜間） 076-218-8022

F A X 076-218-8412

e-mail kangoin@kanazawa-med.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	11
6. 留意事項等に対する履行状況等	18
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人金沢医科大学

(2) 大学名

金沢医科大学大学院

(3) 大学の位置

〒920-0293

石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケコシ ノボル) 竹越 襄 (平成23年4月)		
学長	(カツタ ショウゴ) 勝田 省吾 (平成22年9月)		
研究科長	(タキウチ タカコ) 滝内 隆子 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の博士後期課程の場合(平成27年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
看護学研究科 看護学専攻(修士課程) 修士(看護学)	2	6	12	基礎となる学部等 看護学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 提出年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	6	()	()	()	()	()	1.16倍	倍	
志願者数	10	()	()	()	()	()			
受験者数	10	()	()	()	()	()			
合格者数	7	()	()	()	()	()			
B 入学者数	7	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.16								

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 7	[-] (-) -	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	
計	[-] (-) 7		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	7人	0人	平成27年度	0人	0人		0%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
合計	7人	0人					0%

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究概論	1前	2			4						
	看護研究方法論	1後		2		2					兼1	
	看護教育論	1前		2		2					兼1	
	看護理論	1前		2							兼1	
	看護管理論	未開講 1前		2		1					兼3	履修希望者がいなかったため (27)
	コンサルテーション論	1前		2		3					兼1	
	看護・医療倫理	1後		2		2					兼2	
	医療情報学	1後		2		1					兼2	
	フィジカルアセスメント	1後		2		1					兼7 兼6	教育内容の充実を図るため、兼 担教員を追加(27)
	臨床薬理学	1後		2							兼5 兼4	教育内容の充実を図るため、兼 任教員を追加(27)
	病態生理学	1前		2							兼9 兼8	教育内容の充実を図るため、兼 担教員を追加(27)
感染管理学	未開講 1後		2		1					兼2	履修希望者がいなかったため (27)	
専門科目	看護教育学領域	看護教育学特論A(看護教育課程論)	1前		2		2					
		看護教育学特論B(看護教育方法・評価論)	1前		2		2					
		看護教育学特論C(看護教育史論)	1後		2		2					兼1
		看護技術教育方法論	1後		2		2					
		看護教育学演習	2前		4		3					
	地域生活支援看護学領域	地域看護診断学	1前		2		2	1				
		地域医療支援論	1前		2		3					
		地域ケアシステム論	2前		2			1				兼2
		地域健康支援看護学特論	1後		2		2	1				兼1
		地域健康支援看護学演習	2前		4		2	2				
		生活支援看護学特論	1後		2		3	1				
		生活支援看護学演習	2前		4		3	1				
		高齢者支援看護学特論	1後		2		1	1				
		高齢者支援看護学演習	2前		4		1	1				
		創傷・スキンケア看護学特論	1後		2		1	1				
創傷・スキンケア看護学演習	2前		4		1	1						
高度実践看護学領域	精神看護学特論A(歴史・法制度論)	1前		2		1		1				
	精神看護学特論B(精神看護理論)	1後		2		1		2			兼1	
	リエゾン精神看護論	2前		2		1					兼1	
	うつ病看護論	2前		2		1		2				
	精神看護学治療方法論A(精神・身体状態の評価と治療)	1後		2		1					兼1	
	精神看護学治療方法論B(各種療法)	1後		2		1					兼1	
	精神看護学援助技術論A(アセスメント・評価演習)	1後		2		1		2			兼1	
	精神看護学援助技術論B(多様な精神看護の介入演習)	2前		2		1		2			兼1	
精神看護学実習A(役割機能・直接看護実習)	1後		4		1		2					

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 科 目	精神看護学分野	精神看護学実習B（診断・治療実習）	2前	2		1		2			兼1		
		精神看護学実習C（サブスペシャリティ実習）	2通	2		1		2					
		精神看護学実習D（相談調整実習）	2通	2		1		2			兼1		
	高度実践看護学領域	クリティカルケア看護学分野	クリティカルケア看護学特論A（危機とストレス管理）	未開講 1前	2							兼1	履修希望者がいなかったため（27）
			クリティカルケア看護学特論B（代謝病態生理）	未開講 1前	2		1	1				兼6 兼2	教育内容の充実を図るため、兼任教員を追加。履修希望者がいなかったため未開講。（27）
			クリティカルケア看護学特論C（急性・重症患者管理論）	未開講 1後	2			1				兼6 兼3	教育内容の充実を図るため、兼任教員を追加。履修希望者がいなかったため未開講。（27）
			クリティカルケア看護学特論D（援助的人間関係論）	未開講 1後	2		1						履修希望者がいなかったため（27）
			クリティカルケア看護学演習A（アセスメント・援助論）	未開講 1後	2		1						履修希望者がいなかったため（27）
			クリティカルケア看護学演習B（倫理調整）	未開講 1後	2					1		兼1	設置認可時の留意事項により、教員を追加。履修希望者がいなかったため未開講。（27） 担当 山田奈津子（助教） 平成27年1月 教員審査済
			クリティカルケア看護学演習C（救急看護論）	未開講 1後	2			1		1		兼1	設置認可時の留意事項により、教員を追加。履修希望者がいなかったため未開講。（27） 担当 山田奈津子（助教） 平成27年1月 教員審査済
			クリティカルケア看護学実習A（急性・重症患者包括的看護実践）	未開講 1後	3			1		1		兼1	設置認可時の留意事項により、教員を追加。履修希望者がいなかったため（27） 担当 山田奈津子（助教） 平成27年1月 教員審査済
	クリティカルケア看護学実習B（チーム医療実践）	2前	3			1		1		兼1	設置認可時の留意事項により、教員を追加（27） 担当 山田奈津子（助教） 平成27年1月 教員審査済		
	クリティカルケア看護学実習C（組織包括的看護実践）	2後	4			1		1		兼1	設置認可時の留意事項により、教員を追加（27） 担当 山田奈津子（助教） 平成27年1月 教員審査済		
研 究 科 目	特別研究	1～2 通	8		11	5	1				設置認可時の留意事項により、教員を追加（27） 担当 紺家千津子（教授） 平成27年1月 教員審査済 担当 田中浩二（講師） 平成27年1月 教員審査済 担当 長谷川雅美（教授） 平成27年3月 教員審査提出済		
	課題研究	2通	2		2		1						

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成27年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 1	科目 53	科目 0	科目 54	科目 1 [0]	科目 53 [0]	科目 0 [-]	科目 54 [0]	

記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	63,966.98㎡	0.00㎡	0.00㎡	63,966.98㎡				
	運動場用地	17,038.04㎡	0.00㎡	0.00㎡	17,038.04㎡				
	小 計	81,005.02㎡	0.00㎡	0.00㎡	81,005.02㎡				
	そ の 他	86,886.50㎡	0.00㎡	0.00㎡	86,886.50㎡				
	合 計	167,891.52㎡	0.00㎡	0.00㎡	167,891.52㎡				
(2) 校 舎	専 用	61,848.01㎡	0.00㎡	0.00㎡	61,848.01㎡				
	(61,848.01㎡)	(0.00㎡)	(0.00㎡)	(0.00㎡)	(61,848.01㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	20室	54室	17室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	看護学研究科			18 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	看護学部との共用分 その他大学全体での 共用分 205,079冊	
	看護学研究科	4,703 [522] (4,643 [512])	70 [10] (70 [10])	940 [675] (940 [675])	192 (179)	4,648 (4,628)	252 (252)		
	計	4,703 [522] (4,643 [512])	70 [10] (70 [10])	940 [675] (940 [675])	192 (179)	4,648 (4,628)	252 (252)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	2,143.42㎡		189		138,639				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	2,668.39㎡		テニスコート						
(8) 経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学 全体
		教員1人当り研究費 等	450千円	450千円	図書購入費	2,900千円	2,000千円	1,600千円	
		共 同 研 究 費 等	2,650千円	2,650千円	設備購入費	7,400千円	3,600千円	2,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データベース の整備費（運用コスト 含む）を含む	
		700千円	500千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称		金沢医科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年	設年度	所在地	
看護学部	年	人	年次	人		倍				
看護学科	4	70	3年次 10	300	学士 (看護学)	1.12	平成19年度		石川県河北郡内灘町字大学1-1	
医学部										
医学科	6	110	-	660	学士 (医学)	0.97	昭和47年度		同上	
大学の名称		金沢医科大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年	設年度	所在地	
大学院医学研究科	年	人	年次	人		倍				
医科学専攻	4	35	-	140	博士 (医学)	0.80	平成15年度		石川県河北郡内灘町字大学1-1	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。

※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。

・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。

・AC対象学部等についても必ず記入してください。

・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>・本学の修士課程でかん養される研究能力について明確にすること。その際、研究指導科目の「特別研究」と「課題研究」とで求められる研究能力の違いについても明らかにし、学生にとって十分な理解が得られるよう、わかりやすい説明に努めること。</p> <p>・「課題研究」を2単位60時間と変更したにもかかわらず、授業内容が変更されていないことから、学生の負担を考慮し、更に中身を精選してスケジュールを見直すこと。また、「課題研究」が実習体験を前提としているものであることから、ある程度実習が進んだ段階で「課題研究」を開始するなど、開講時期を見直すこと。</p>	<p>留意事項等の指摘内容の上記2点は密接に関係しているため、一括して説明する。</p> <p>1. 本学の修士課程で養成する研究能力と「特別研究」・「課題研究」で求める能力について 本看護学研究科は、以下の人材養成と研究能力の育成を目的に開学した。</p> <p>①高齢化・過疎化が進行し続け、疾病予防、急性期から慢性期、終末期まで切れ目のない医療・看護の提供、そして生活支援を必要とする能登地区・富山県西部において高度で専門的な知識と能力に基づき最適な医療・看護が提供できる高度看護専門職者を育成する。</p> <p>この人材養成に伴い、本看護学研究科で養成する研究能力は、地域の状況や住民のニーズを的確に分析し、地域や住民の特性を活かした看護実践の発展に寄与できる研究能力の修得であり、そのため、「特別研究」では、研究プロセスの中でも次の2点に重点を置いている。一点目は、地域の状況分析と文献レビューに基づく研究課題の設定である。二点目は、研究目的に沿って一貫した論理展開がみられる修士論文の作成である。</p> <p>②看護系大学の急増に伴う教員の質・量の充足に対する修士課程における教育者の養成を踏まえ、高度化・多様化する医療の動向を見据え、確かな教育力と研究力を備え、体系的かつ実践的な教育の展開ができる能力を有し、看護基礎教育・看護継続教育において役割を果たすことができる看護教育者を養成する。</p> <p>(次ページにつづく)</p>	<p>留意事項</p>

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年10月)</p>		<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>この人材養成に伴い、本学が養成する研究能力は、高度化・多様化する医療と社会の動向に対応できる知識・技術を修得した看護専門職者の育成、生涯学習できる能力を修得した専門職者の育成等の看護教育に寄与できる研究能力の修得であり、そのため「特別研究」では、研究プロセスの中でも次の2点に重点を置いている。一点目は、看護基礎教育・看護継続教育の状況分析と文献レビューに基づく研究課題の設定である。二点目は、研究目的に沿って一貫した論理展開がみられる修士論文の作成である。</p> <p>③ 能登地区における精神疾患に対応する医療機関の不足に対して、精神疾患患者の生活様式を踏まえた疾病予防と疾病管理、各症状のアセスメント、医療者へのコンサルテーション能力をもつ精神看護専門看護師の育成、併せて不十分な救急医療体制に対して救急医療現場をはじめとするクリティカルな現場に対応できる高度な専門的知識と能力を有する急性・重症患者専門看護師を育成する。</p> <p>この人材養成に伴い、本看護学研究科で養成する研究能力は、精神看護学及びクリティカルケア看護学領域の実践の場における看護上の課題解決を図るための研究能力の修得である。</p> <p>ここでいう研究能力とは、専門とする看護分野での経験や実習中に見出した特定の課題について研究として取り組み、看護実践の提供に寄与する知見を修士論文として作成できる能力である。そのため、「課題研究」において取り扱う研究課題は、専門とする看護分野での経験や実習中の体験に基づく特定のケアの効果を確認するものなど、看護実践現場におけるベストプラクティスの実践を目指すものとする。(27)</p> <p>(次ページにつづく)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年10月)</p>		<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>2. 「特別研究」と「課題研究」で求められる研究能力の学生への説明について</p> <p>課題研究の授業内容の見直しを行い、シラバスの変更を行った。</p> <p>入学時のガイダンスで、「平成27年度看護学研究科 教育要項」を用いて、本看護学研究科が養成する人材像とそれに伴う研究能力、また、教育課程の「研究科目」として「特別研究」と「課題研究」の履修方法(研究スケジュール、学位申請・審査等)を具体的な説明を通してその相違が理解できるようにした。</p> <p>第2回目のガイダンス(平成27年7月11日実施予定)において、「特別研究」と「課題研究」別に仮テーマの提出から学位授与までをスケジュールに沿って、研究計画書の様式、研究公開審査会の方法、学位申請の書類等で相違する点が明確に理解できるように説明する。(27)</p> <p>3. 実習時期と課題研究の開始時期について</p> <p>課題研究のテーマの検討、研究計画書作成は2年次前期の終了時までとし、その間にできるだけ実習体験ができるように、1年次後期に精神看護学実習A(役割機能・直接看護学実習)、クリティカルケア看護学実習A(急性・重症患者包括的看護実践)を配置し、また2年次前期の前半に精神看護学実習B(診断・治療実習)、クリティカルケア看護学実習B(チーム医療実践)を配置、さらに、サブスペシャリティを研究課題として希望する学生にも配慮し、2年次通年の精神看護学実習C(サブスペシャリティ実習)も前期に配置できるように調整中である。(27)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成26年10月)	<p>・教員の補充を必要とされた13授業科目については、開設時又は科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。</p>	留意事項	<p>教員の補充を必要とする13授業科目のうち、7授業科目については教員審査を受け補充し、1授業科目について現在、教員審査の提出済である。なお、教員の補充が必要な5授業科目の講義、実習を担当できる教育経験や研究業績を持った教員の採用に向けて公募による募集活動を行っている。早急に補充できるよう更に務める。(27)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教員の資質の維持向上を図るため、看護学部開設時から継続している看護学部FD委員会、看護学部教員評価委員会に看護学研究科担当教員を含め学部・研究科合同の委員会として拡充した。

FD委員会は看護学研究科の教員の殆どが看護学部の教員を兼務していることから、既存の看護学部FD委員会に研究科を代表する委員を加え、合同の委員会とした。

教員評価委員会も学部、研究科合同とした。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成27年4月開設時から検討を開始し、第1回委員会を5月中に開催する予定である。

c 委員会の審議事項等

平成27年4月開設時から大学院研究科運営委員会、大学院研究科教授会で検討を開始した。

② 実施状況

a 実施内容

・FD研修会 看護学教育に係るFD研修会として、学部教育、大学院教育に関する研修会をそれぞれ年1～2回、講演会・ワークショップとして開催するよう計画している。

・教員評価の実施 現在、看護学部では年度ごとに全教員から教育活動、研究活動、社会貢献などの活動領域別の評価シートに自己評価したものを提出させ、集計・分析を行い、各教員に評価結果をフィードバックしている。評価項目の見直しを行い継続して実施するよう計画している。

b 実施方法

学部、研究科における教育改善に向け、それぞれの必要性の高いテーマについての研修会を開催し、現在、大学院を担当していない教員を含めて全員参加するよう計画している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

看護学部教員を対象としたFD研修会は、平成19年度看護学部開設時から年1～2回継続して実施しており、平成24年度からは大学院開設に向けたテーマを含めて実施している。

平成24年2月「本大学における看護学教育大学化の意味と今後の課題：大学院開設に向けて」講演会開催

平成25年10月「アメリカにおけるNurse Practitioner (NP) の役割」講演会開催

平成26年10月「今、求められる高度実践看護師の役割・機能」講演会開催

平成26年12月「看護学における学部教育と大学院教育の運営について」ワークショップ開催

各研修会の参加状況は、7～8割の教員が参加し、意見交換が行われている。

また、平成27年度は「修士課程で修得すべき能力について（仮題）」というテーマで研修会を計画している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員が評価結果を参考に自主的に授業改善を行い、学生との懇談やアンケートの結果の推移等により継続した授業改善が行われるものと期待している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

看護学部で現在実施している授業評価アンケートの評価項目の見直しを行い、各授業科目の最終授業時に実施できるよう計画している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果の開示方法等については対象学生が少なく、回答者が特定できることから研究科長及びFD委員会での授業改善の資料として活用できるよう検討している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 別添資料1のとおり</p> <p>② 自己点検・評価報告書 看護学研究科の授業や研究指導等が一通り完了した時点（平成29年3月）で自己点検・評価報告書を作成する予定。</p> <p>a 公表（予定）時期 ・平成29年5月末 公表予定</p> <p>b 公表方法 ・大学ホームページ上に公開予定（平成29年5月末を予定）</p> <p>③ 認証評価を受ける計画 ・平成26年度に2回目の認証評価を受審し、適合しているとの評価を得た。次回は平成33年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。また、日本看護系大学協議会が実施予定の分野別評価も受審する予定である。</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表の有無 (有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成27年 8月末)</p>
--